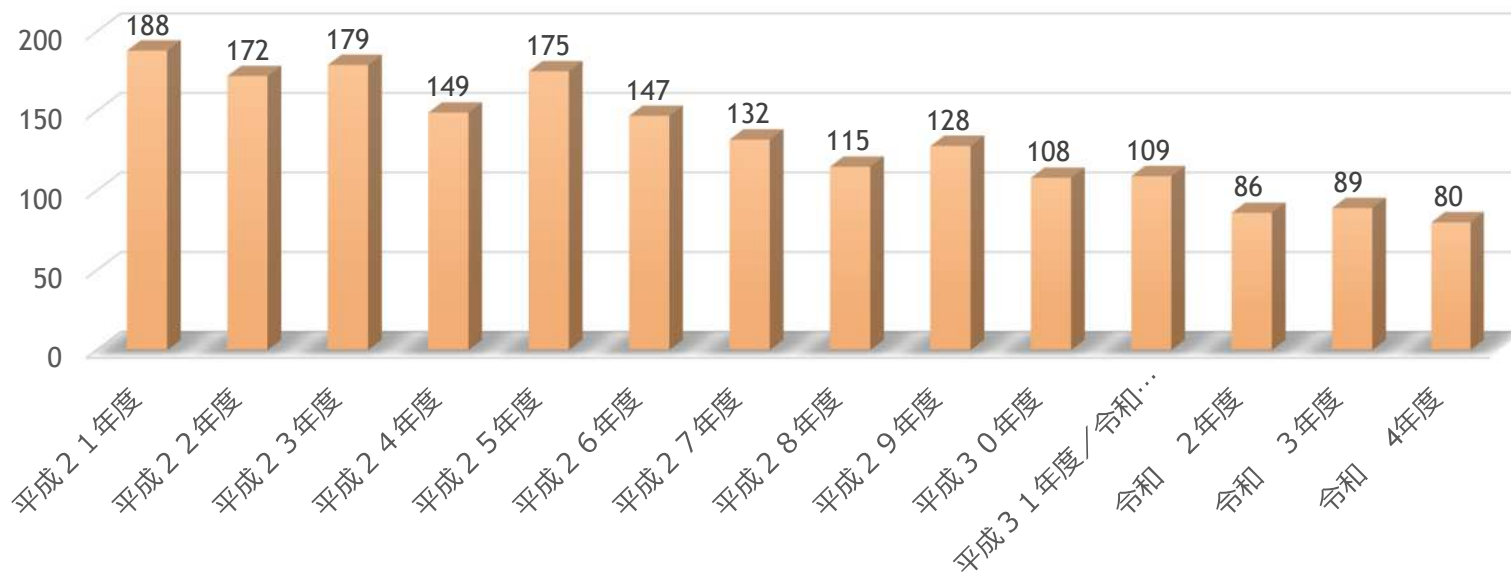


良好な保育環境の確保

ヒト・モノ・カネの視点での人材確保策

本市の出生数の推移（年間出生数）はどうなっているか

出生数推移



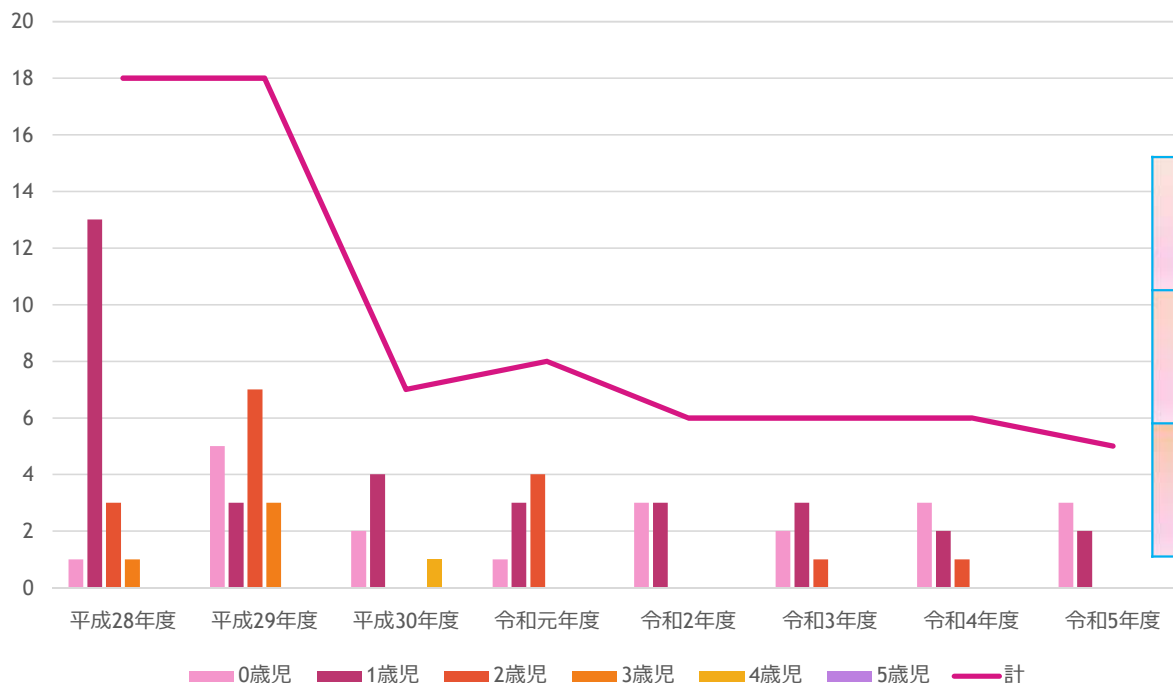
令和に入ってから、本市出生数は大きく減少し、ここ3カ年は80人台で推移している。

現在の人口とその構成から推測すれば、現状からの大きな転換は考えにくい。出生数の減少は、就学前児童施設のみならず、義務教育施設にも大きな影響を及ぼす可能性がある。



待機児童数はどうなっているか

待機児童数推移



職員配置基準	0歳児	1~2歳児	3歳児	4~5歳児
保育園	3 : 1	6 : 1	20 : 1	30 : 1
幼稚園	—	—	35 : 1	35 : 1

国基準待機児童は、平成年間では生じていたが、令和に入ってから発生していない。待機が発生しやすいのは3歳未満児であり、保育士配置基準の0歳児3人：保育士1人、1~2歳児6人：保育士1人という基準が大きく影響している。



出生数が著しく減少しているのに、なぜ保育が不足するのか

就学前児童施設の数

公立

保育園 和田木 初島
幼稚園 多賀 泉 伊豆山 (休園)
こども園 あたみこども園

私立

保育園 多賀、栄光熱海、富士
地方裁量型こども園 MOA
小規模保育 パンダの森



- ・ 共働き家庭の増加により、幼稚園<保育所という雰囲気となり幼稚園への通園児が減少している。
- ・ 幼稚園には乳児は通園できない。
- ・ 出生数の減少に伴い国基準での待機児童はいないが、親が通園させたい園に入れない状況が継続している。
- ・ 施設の要求基準や保育士等の不足から、0歳から2歳児の階層で待機者が発生しやすい状況が継続している。
- ・ 業務にかかる疲弊、退職や新規採用の困難さから保育従事者の数量が不足
- ・ 多様化する価値感による保育従事者の意識変化（転職への抵抗感の低下など）による人材の流動化が進行

なぜ定着しないのか（公立園の場合）

【若手職員の気持ち】

- ・住宅の課題
物件が古い。
住みたい物件がない。
あっても高いので住めない。
生活利便性が低い。
- ・結婚を機に退職する。
出会う機会がないので、マッチングアプリ等を利用し、市外の異性と出会い、転出
- ・孤立感、孤独感を感じる。
地元出身者でないため、友人関係を構築しにくく、親身になって相談したり、遊ぶ相手がいなく孤独な閉塞感を抱く。



【中堅職員の気持ち】

- ・ICT機器への対応に不安
パッド等PCとは違う、新しい機器への習熟に不得手だったり、アプリを使えない。
- ・少子化に起因する将来への漠然とした不安
勤務先施設の統廃合によって、自分の職位が上がっていかないことへの不満と不安
- ・若手職員を育てるのが難しい。
実績に裏打ちされない自己肯定感にあふれる若手への応対や指導に自信を持ってない。
- ・上位職の多忙を目の当たりにして、判断に錯誤がないかなどを相談できないことへの不安

【勤務環境】

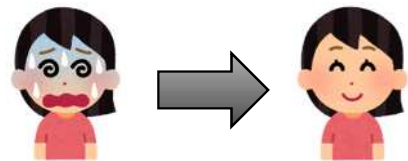
- ・11時間保育によるシフト勤務、休日保育など保護者の要求に応えるために、自身の家族との時間を保てないなどの負担感が大きくなり、心身とも疲弊してしまう。
また、負担感や長時間労働に比例しない給与賃金に不満がある。
- ・保育士等の退職や人事異動、転職での異動などが頻繁化し、施設の安定的経営に対する困難さが増高
- ・複数の保育士等が担任するクラスごとの保育について話し合える時間的余裕が持てない。



現況を打破するため何をすべきか

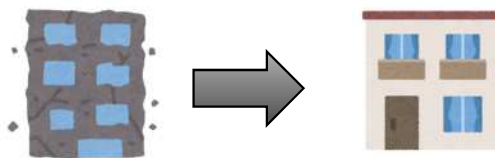
ヒト（属人的課題）

- ・ 保育へのモチベーションの再確認が必要
- ・ 心理的安全性の高い集団に作り変える。（組織の中で、自分の考えや気持ちを誰に対してでも安心して発言できる状態をいう。）
- ・ 外部研修等へ積極的に参加することで、刺激を受ける。
- ・ 新卒採用や経験者採用者の増加で、シフト勤務や休暇取得に余裕を持たせる。
- ・ 観光や災害動員のスキームからの解放による多忙感の減



モノ（施設、設備の課題）

- ・ 陳腐化や安全性に劣る施設の更新や改修の実施
- ・ 和田木保育園のような狭小で耐震性に不安の残る施設は、職員と園児の潜在的危険性を下げられないため、新施設を建設するか、または他所へ移転すべき。
- ・ 職員1人1人にワーキングスペースと会議のためのスペースを確保する。



カネ（属人的課題、待遇）

- ・ 給与所得の増加による待遇改善
- ・ 保育士等養成のため、当該資格取得を前提とした進学者の市内への就職と居住を条件とする給付型、または全額返済免除とする奨学金制度の確立
- ・ 福利厚生充実や有給休暇取得しやすくする。



望まれる調和のとれた保育環境を構築



園児

- ・毎日楽しく通園しようと思う、先生やみんなと過ごす満ち足りた空間
- ・関心を持った事柄について、自分で考え、行動できる自由な空間
- ・みんなと同様に、一定のルールに沿って活動する空間



保育士等

- ・保育を志した時の気持ちを保つことができる空間
- ・何でも話し合え、意見を尊重され、民主的で安心な空間
- ・職員の質、量ともに一定の基準を担保された空間
- ・新採指導も複数で行うことができる。

保護者

- ・保護者の希望に合致し、こどもが楽しそうに通園している空間
- ・安心・安全な保育空間
- ・急な保育要求にも応えてくれる施設
- ・保護者への要求がない施設
- ・職員の質、量ともに十分な施設

